

図書館だより

枚方市立図書館通信第 97 号 <http://www.city.hirakata.osaka.jp/site/sub-news/tayori.html>

発行：平成 27 年 1 月 枚方市立中央図書館（毎週金曜日第 4 火曜日休館）

〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1 TEL 050-7105-8141(代) FAX 072-851-0962



菅原図書館



中央図書館：
中学生の調べ学
習コンクール

「中学生の調べ学習コンクール」開催 12/6~12/21

レポート

教育長賞は第四中の荒川直美さん、中央図書館長賞は渚西中の高松佳奈さん

中央図書館で「第 3 回中学生の調べ学習コンクール」を開催し、CDジャケット 75 人、フォトエッセイ 60 人、日本文化の紹介 65 人、自由テーマ 59 人、合計 259 人（1 人 1 点）の作品を展示しました。

自由テーマは今回あらたに設けた部門で、障害者の人権をテーマにしたものや、マララさんのノーベル賞受賞の影響もあるのか、平和についてとりあげたものが多くありました。日本文化の紹介では、七夕伝説や温泉、お城や観光地紹介のほか、独楽回しなど今ではあまり見られなくなった文化もありました。フォトエッセイでは、旅行やクラブ活動をテーマにしたものが多いなか、身近な風景や家族愛をとりあげたものがありました。CDジャケットでは人とのふれあいを謳いあげたものが多く見受けられました。

12 月 6 日から 14 日まで来館者による投票を行い、来館者多数による投票の結果、28 人が優秀賞に選ばれました。さらに、今年は教育長賞と中央図書館長賞をもうけ、第四中の荒川直美さん（「日本文化の紹介「働きものの風呂敷」」、渚西中の高松佳奈さん（日本文化の紹介「日本の七夕」）がそれぞれ受賞しました。12 月 21 日には中央図書館で表彰式を行い、教育長から賞状を授与しました。枚方市立図書館では今後も学校と連携して、中学生の読書活動を推進していきます。（中央図書館児童サービスグループ・学校図書館支援グループ）

1 月の図書館イベント

中高生読書会

●香里ヶ丘図書館

1 月 17 日（土曜日）15：00～

テキスト未定

成人読書会

●枚方公園分室

1 月 23 日（金曜日）10：30～

テキスト：『ジェノサイド』

高野和明／著 角川書店

●藤阪分室

★アリスの会

1 月 14 日（水曜日）10：30～12：00

テキスト：『鉄のしぶきがはねる』

まはら 三桃／著 講談社

★ティッチの会

1 月 21 日（水曜日）10：30～12：00

石倉ヒロユキ の絵本

●茄子作分室

1 月 19 日（月曜日）10：30～12：00

テキスト：『月下上海』

山口 恵以子／著 文藝春秋

●香里園分室

1 月 19 日（月曜日）10：30～12：00

テキスト：『はなとゆめ』

沖方 丁／著 KADOKAWA

●氷室分室

1 月 24 日（土曜日）10：30～12：00

テキスト：『桜ほうさら』

宮部みゆき／著 PHP 研究所

手話の会（成人対象）

●藤阪分室

1 月 26 日（月曜日）10：00～12：00

●香里園分室

1 月 9 日（金曜日）、1 月 23 日（金曜日）

両日とも 10：30～12：00

牧野図書館は、改修工事のため、1 月 9 日金曜日
から 2 月 28 日まで閉館しています。予約本の受
け取りは行います。

ふれあいルーム（絵本で子育て）

■中央図書館 毎週月曜日

■香里ヶ丘図書館 第 1・3（金）第 2・4（木）

■楠葉生涯学習市民センター 第 2・4 火曜日

■菅原図書館 毎週日曜日

■さだ図書館 毎週木曜日（第 3 週は金曜日）

■津田図書館 毎週水曜日

■御殿山図書館 毎週金曜日

いずれも 10 時～12 時 30 分（楠葉のみ 9 時 30 分～
12 時）但し、図書館等の休館日には実施しません。

問合先（子育て支援室）072-841-1221 代

ちょっと【本の紹介】

『ブラック・ジャックは遠かった - 阪大医学生ふらふら青春記』

（久坂部羊：著／編集集団 140B）

京阪電車の主要駅で毎月 1 日に置かれているタ
ウン情報誌「月刊島民」に連載されていた同作家
によるエッセイを単行本としてまとめたもの。か
つて中之島にあった大阪大学医学部と同附属病院
出身の作者の青春の 1 ページをあるときはシニカ
ルに、またあるときは真面目に綴っている。舞台
が医学部だからといって医学的な専門知識も必要
なく、文字通り「ふらふら」と気楽に読めるのが
ありがたい。

内容は普通の授業風景から友人や恩師の思い
出、果ては北海道や海外に旅行したときの体験や
作者自身が傾倒した画家や作家などテーマは
様々。中でも大学の授業で得た専門知識や培って
きた医学への理想が、実際の病院現場の中で音を
立てるように崩れて行く様子と、その現実を受け
入れなければならない若さゆえの葛藤に悩むくだ
りは、そのまま現在の作品への一貫したテーマへ
と繋がっていることがわかる。

「ふらふら」と気楽に読める…とはいうものの、
硬軟取り混ぜての内容は作者の思いがけない一面
がうかがえて興味深い。

（菅原図書館職員）